

(道徳)

**認め合い、学び合う子どもを育て、考える道徳を目指して
～自己を見つめ、共に生きる～**

大阪市立山之内小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校は、4年前より、「学び合い」を中心とした授業づくりについて研究している。国語科における学び合いの授業について研究してきた中で、児童は見通しをもちながら安心して授業に向かい、話し合うことをためらわずにできるようになってきた。しかし、自分の考えに自信がもてずに自分の意見がうもれてしまったり、全体の話し合いでも深まりにくかったりして、課題も見られた。これらのことから、児童の自尊感情を高めたいと考え、研究教科を特別の教科「道徳科」とし、研究主題を、「認め合い、学び合う子どもを育て、考える道徳を目指して～自己をみつめ 共に生きる～」として、研究を進めることにした。2年目となる今年度は、「人との関わり、集団や社会との関わり」について取り組むことで、人とのつながりの中で自分を見つめ、考えをもつことを大事にしたいと考えた。

2. 研究の趣旨

「学び合い」の充実をめざして、教材でどんなことを考えさせたいのかということを大事に、「深めることができる主発問の設定」「多面的、多角的に考えられる工夫」「学び合いの方法」「自分との関わりにつなげる工夫」を意識した授業づくりに努めた。

- ① ねらいとする価値項目と教材について
- ② 授業の工夫について
- ③ 学び合いについて
- ④ 振り返りについて

この4点をもとにして、ねらいとする価値項目を大事にする授業の創造、学び合いを充実させるための手立てについて、研究討議会で議論できるようにした。グループ討議で出た意見をもとに、一つテーマを決めて授業の中で他にどのような授業の展開可能性があるかを全体で話し合うようにした。

3. 研究の概要

- ① 教材研究で、ねらいとする価値項目を踏まえ、児童の実態をもとに教材の中で何について考えさせることが必要か、どんなことについて話し合うと効果的かについて考えていくようにした。その中でも、心情にせまることを外さないようにした。
- ② 導入でねらいとする価値項目にかかわる身近な話題について話すことを取り入れた。教材を読み取っていく段階で、人物のセリフや行動について色分けした短冊で示したり、心情をハートや表情カードを使ったりして視覚化し、児童が教材を短時間でしっかり把握できるように工夫するようにした。
- ③ 学び合いについては、話し合う場面をどのようにするかについて検討を重ね考えるようにした。人物に伝えたい内容を考えたり、課題を解決するためにどんな方法があるかを話し合ったり、人物の行動の裏に隠れている心情を出し合ったりして、多様な考えを出すことでねらいにせまることができるように工夫した。

本校で普段から使っているホワイトボードを用いて、学び合いを充実させるための工夫についても研究してきた。自分の考えを個人用のホワイトボードに書くことで整

理し、話し合うようにした。書くときに、字数を制限したり、キーワードにまとめたりするなど条件をつけることで、児童は出てきた意見をまとめようと話し合う姿が見られた。また、心情を読み取る場面では、登場人物それぞれの気持ちを分担して考えまとめたホワイトボードをそのまま黒板に貼ることで、児童の意見を共有することができた。

話すことが苦手な児童も学び合いに参加することができるよう付箋を使って考えを交流するようにした。その結果、同じ意見はホワイトボードの上で重ねることでまとめ、話し合いにも参加し、心情にせまりながら考えることができた。

- ④ 振り返りの場面では、ねらいとする価値項目について書くことができるように発問の工夫をするようにした。「わかったことをまとめよう」「～についてどう考えるかを書こう」など授業に応じて工夫した。児童の考えを全面的に受け入れながらも、ゆさぶる展開をすることで、よりねらいにせまり、自分のこととして考えることができたことがわかった。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ペープサートを使ったり、気持ちを共有化したりして学び合いの内容を理解しやすく、話し合う内容をしぼることができ、児童を意欲的に参加させることができた。
- 心情を考えたあとどうすればよかったかなど行動を振り返る場面について話し合わせることで、児童に自分のこととしてとらえながら学び合いに向かわせることができた。
- それぞれの人物の気持ちについて考えることを大事にしたことで、多面的に考え、共有することができ、自分の思いだけでなく周りの人の心情にもせまりながら自分の考えをもつことができた。
- ホワイトボードを工夫して使ったり、キーワードを話し合ったりして、条件をつけることによりグループの中でどの子も積極的に話し合いに参加する様子がみられた。
- フリートークで話し合いをしたり、付箋やホワイトボードの使い方を工夫したりしたことで、考えたり話したりすることが苦手であると感じる児童も、何の抵抗もなく学び合いに参加することができた。

(2) 今後の課題

よりねらいにせまり深めることができるように、また、自分との関わりを考えることができるように、学び合いをどの場面で取り入れ、何を考えさせるのかについて教材研究し、より心情にせまる工夫をしていく必要がある。

そのために、次のことを意識したい。

- ・ ねらいと教材の関係を明確にすること
- ・ ねらいにせまる「学び合い」について考えること
(主発問・方法・深め方など)
- ・ 考えを深めたり、自分のこととしてとらえたりすることができるような学習の流れをつくること
- ・ 授業の中で、児童から出てきた意見から考えていくようにすること
- ・ 学び合いを充実させるために、時間配分を考えること